

5 時間目 SNS等を正しく使うために

スマホでやってはいけないことって？

スマホを使わせない方が良いとは思いません。スマホを与える時は、子どもたちが危険な目に遭わないために『やってはいけないこと』を教えてあげてください。

- 個人情報(名前、住所、年齢など)のほか、顔写真や学校名、部活名など個人の特定につながる情報は書き込まない(自分のことだけでなく、友だちや家族のことでもダメです)
- 位置情報が付いている写真は投稿しない(カメラアプリから解除設定をしましょう)
 写り込む景色などから個人情報が特定されることもあるので、写真や動画の撮影には十分に注意する。
- ネットの情報を鵜呑みにしない
- 下着姿や裸の写真は撮らない、撮らせない、送らない(交際相手でもダメです)
- ネットで知り合った人と電話で話したり、メッセージのやりとりはしないし、絶対に会わない(悪意ある人が良い人になりすましていたりします)



保護者としてすべきこと(スマホを買い与えた責任)

子どもに自転車を買ってあげたら、それで終わりですか？子どもが自転車に安全に乗れるようになるまで一緒に練習しませんか？

スマホも同じではないでしょうか？子どもがスマホで被害に遭わないためにも、誰かを傷つけないためにも、正しい使い方を教えるのが**保護者の責任**です。

● 親がスマホの所有者だと教えましょう

スマホなどは、保護者が契約しています。子どもには「親が貸してあげている。」ということ認識させ、使用方のルール(ルールの作り方は次ページ『6時間目』を参照)などをしっかりと決め、約束させましょう。また、パスワードの管理は保護者がやりましょう。

● 子どもに危険(怖さ)を教えましょう

ネット上では、良い人と悪い人を簡単には見分けられないことを教えましょう。そして、被害に遭った同じ歳くらいの子どもの現実において、自分もいつ被害に遭うかわからないことも教えてあげてください。

● 「匿名だから・・・」では済まされないことを教えましょう

顔が見えないから、匿名だから、と行って好き勝手なことをしてはいけないことを教えましょう。リアルな社会でダメなことは、ネットの世界でもやってはいけません。ネットいじめなんてもつてのほか。悪事は必ずばれます。

● わからないことは、子どもに教えてもらいましょう

子どもが使っているアプリやゲームなどに関心を持ち、わからないことは子どもに教えてもらいましょう。子どもが使うアプリなどにどういう機能があって、どこが危険かを自分で体感し、『スマホの怖さ』を自分の言葉で子どもに教えてあげてください。



子どもたちは、スマホの『楽しさ』は知っていても、『怖さ』は知りません